

会報
61号

会報

函館の歴史的風土を守る会会報
No.61 H11. 3. 30

発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社（両角）
電話(0138)51-4785
印刷所 南三和印刷 電話45-0845



「歴風文化賞」の授賞式＝2月19日、函館・五島軒本店で

お礼の言葉

函館の歴史的風土を守る会々長 浜島 国四郎

先の見えない不景気が続いております。

更に今年はインフルエンザの猛威での幕明けとなりました。このような時節にも拘わらず、鈴木恵子氏（湯の川グランドホテル社長）、中林利数氏（NHK函館放送局々長）を正副実行委員長にお迎えし、約400名を越える沢山の皆様のご賛同、ご出席をいただき、恒例の「第21回・新春チャリティ・パーティー」を開催出来たことを心から厚く御礼申し上げます。また本会の主旨に協賛されて、チャリティ・オークションに多数の景品を提供して下さいました各商社の皆様にも心からのお礼申し上げます。

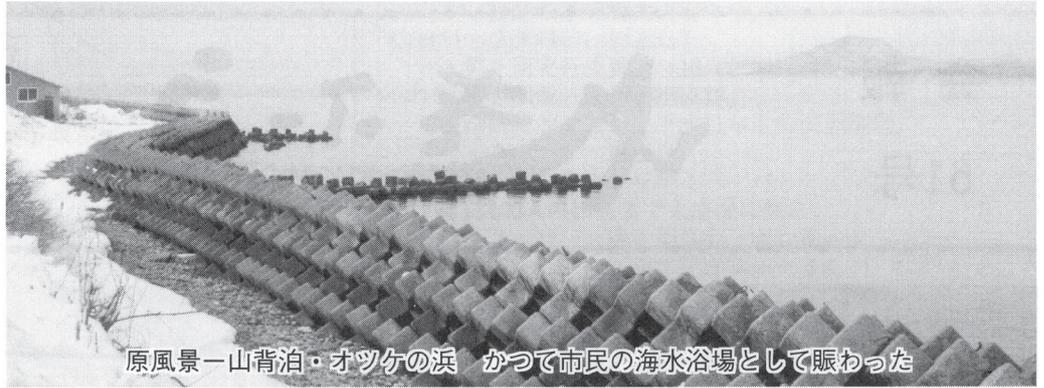
さて、歴風文化賞は、函館の歴史的風土を守り、うるおいのある美しい町並みのために筆舌に尽し難い、ご苦勞をしている方々への感謝の念をこめて贈らせていただいて参りました。

歴風文化賞は、保存建築物・再生保存建築物・団体・原風景宣言と分類しておりますが、今年は20周年を記念して、新しく個人賞を創設し、浅利政俊氏を推挙いたしました。

あらためて、厳しい環境の中で、かくも多勢の御参加を賜り、恒例のチャリティー・パーティーを盛大裡に終了出来たことを心からお礼申し上げます。

原風景宣言

本年度、遠足や花見などで広く市民に親しまれてきた「山背泊・オツケの浜」を原風景とした。
(宣言文省略)



原風景—山背泊・オツケの浜 かつて市民の海水浴場として賑わった

歴風文化賞 個人



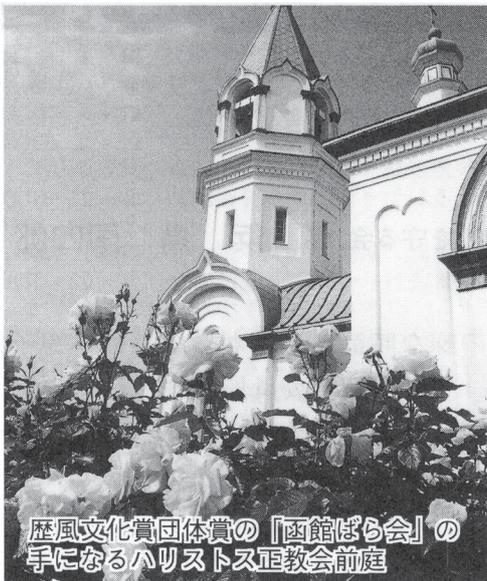
歴風文化賞の個人賞
第1号にかがやく浅利政利氏

保存建築物



歴風文化賞—保存建築物 松田朝太郎邸（七飯峠下）（明治13年）

歴風文化賞 団体

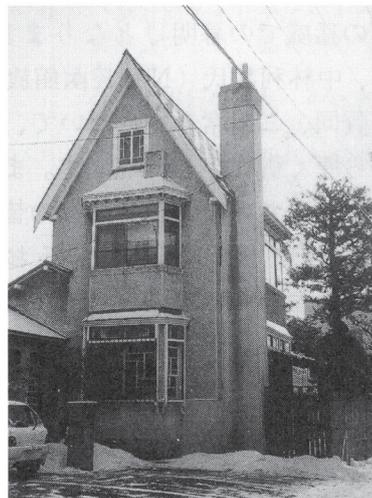


歴風文化賞団体賞の「函館ばら会」の手になるハリストス正教会前庭



歴風文化賞—保存建築物 板谷建具家具製作所（函館市新川町）（昭和7年）

特別賞



歴風文化賞—保存建築物
竹田ノブ邸（函館市本町）（昭和7年）



歴風文化賞特別賞
観光客もたずねる満65年の
現役エレベーター
（大正12年、北海道最古）

歴風文化賞選考基準

- ① 建造物自体の貴重性。
- ② 持ち主が長年保存への努力を続けている。
- ③ 景観への寄与。
- ④ 歴史性。
- ⑤ 地域の町並みや社会全般へ波及効果が大い。
- ⑥ 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である。

協賛商社のみなさまありがとうございました

チャリティーパーティーの御協力商社尊名

- ・(株)五島軒・平方亮三（版画家）・カメラのたねざわ・(株)第一食品・大槻食材(株)
- ・サッポロウエシマコーヒー(株)函館支店・(有)山田万年堂・五稜郭タワー(株)・(株)ガスコープ
- ・(株)函館山ロープウェイ・(有)末広堂・昭和製菓(株)・(株)カネマル・建具協同組合・日新産業(株)・近藤商会(株)
- ・函館トヨタ自動車(株)・三菱電気(株)ライフテック・(株)ゾーンプロジェクト・歴風会会員のみなさん

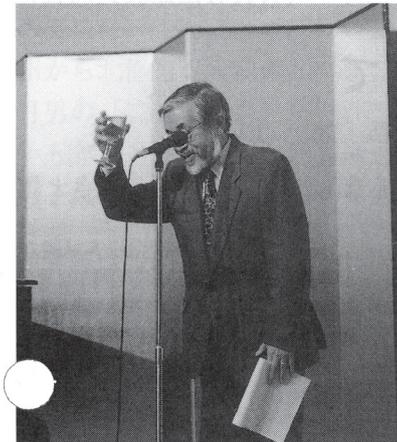
(順不同・敬称略)



鈴木実行委員長あいさつ



賑わったパーティー会場（五島軒本店）



奥平教授の乾杯



ロシア極東総合大学函館校々長夫妻



金子市都市建設部長謝辞



混雑する受付



瀬川氏のカンツォーネ



初出演の函館アコーディオンクラブ

ごあいさつ

実行委員長 鈴木 恵子

『第21回函館の町並みを美しくする新春チャリティ・パーティー』の実行委員長の大役を何とかやりとげることが出来、実行委員会のメンバーに感謝の気持ちでいっぱいです。

女性を実行委員長にするという粋なはからいに少しとまどいながらも参加いただいた方々の「函館を何とか良くしていこう」と云う思いに嬉しくなりました。

今回は過去最高の400人を超す参加者に、この会に対する熱意も十分に感じさせていただきました。

函館で生まれ、育ち、商売をしている私にとり、函館らしい雰囲気をもった建物、風土、自然、文化等を大切に守っていくことは当然の行為だと思います。

そしてその思いが日本各地だけでなく世界各国から訪れる人々に感動を与え、1度ならず2度、3度と訪れたい町になるのではないのでしょうか。

この「歴風会」は市民レベルで地道に活動を続けていくことの大切さを教えてくれる数少ない組織だと思います。

市民一人一人の思いが、「歴風会文化賞」として、又「町並み基金」となり、一歩ずつ確実に成長をとげています。

今回「歴風会」の真の姿にふれさせていただき、改めて深く感謝し、その活動に大いなる拍手を送ります。

（株湯の川グランドホテル社長）

405人も

副実行委員長 中 林 利 数

・町内に昔からの豆腐屋のあるような町に住みたいと言った作家がいた。

私は朝早く起きて散歩したくなるような、そしてそれが毎朝でも飽きないような町に住みたいと思う。函館と私の故郷飛騨高山がそれに当たる。10回も転動した上で言うのだから、ウソではない。

・函館は2回目です。最初は学校出たての新人で赴任して、昭和40年から6年間お邪魔した。

連絡船、鮭鱒、カニの北洋船団の賑わいが懐かしい。当時のNHKは函館山の麓にあった。丸井さんも、道新さんも、日銀さん等々も皆西部地区にあった。

昔が忘れられず、私は今も元町に部屋を借りて住んでいる。

・私事で恐縮ですが、去年に引き続いて、今年も4冊にまた本を出します。

故郷の高山の新聞に連載していた「やませの風」というコラムをまとめたもので、歴風会のことも、一項目書いております。読んでいただければ幸いです。

・それにしても、今年のチャリティは405人もの出席があり、うれしいことでした。

（NHK函館放送局長）



受賞者を代表して本城氏謝辞

歴風文化賞を受けて

函館ばら会 事務局長 本 城 英 夫

この度、思いもかけない歴風文化賞をいただきまして、会員一同、驚きと嬉しさいっぱい心から感謝をしております。

函館は、異国情緒あふれる街といわれているだけに、早くから開けた国際的な港町の様々な顔が数多く残されており、北海道はもとより、日本でもユニークな歴史文化を有していると思います。これらを末永く残していくためには、函館市民が大切な文化財産だという認識を持つことが、一番重要なことです。そのためにも、高い見識と地道な活動でご尽力されていらっしゃる歴風会の皆様には敬意を表するものです。

初めての新春チャリティパーティーで、当会の会員も18名が参加し、400名を超える会場の熱気に圧倒されましたが、歴風会の活動の底力を感じさせられました。

僭越ですが、若干の感想を述べさせていただきます。保存建築物や活動の内容をスライド上映しての紹介は大変に良い企画ですが、表彰式と併行したため、せっかくのスクリーンは鮮明さが薄れて、各々の解説が来場者に十分な周知と、理解がされ難かったのではないかと感じています。全体として、楽しいディナーショーで、アトラクションが盛りだくさんあり、オークションの発表などで遅くなりましたが、せめて、9時前には終えて、市営の交通機関への利便を考慮してもらいたいと思います。

さて、美しい函館の街並みを、より良い景観にするためには、花と緑が大切な役割を果していると思っています。最近、基坂の企業花壇やプランターの花などが多くなり、美しい様相を呈してきました。ツツジやオンコも良いのですが、もっと豊かな花の咲く街並みにしていきたいものです。

バラと深いゆかりをもっている函館の歴史に注目し、バラの花が咲き薫るロマン豊かな街にしていくのはいかがでしょうか。丈夫で手入れの楽な品種を選び、維持管理を容易にして、初夏から雪の降る頃まで咲き続ける、四季咲き性の花だということに目を向けていただきたいと思います。

この度の受賞を機に、バラへの関心が高まることを、そして、「ばらの街ハコダテ」へ一歩でも進むことを願うものです。

文化賞を受けて

竹田ノブ

立春とは暦の上のみ、お寒い日々がつづくこの頃でございます。先生にはますます御清祥のこととおよろこび申し上げます。

さて、この度は大変御心を労されご配慮頂きまして只々有難く厚く御礼を申し上げます。

函館の歴史的風土を守る会が、皆様の力によってこんなに早くより発足、函館市にとって意義ある会をなされて居られましたことを少しも知らなかった私の無知さをおぼろしく思うばかりでございます。

平成六年の夏頃から函館市役所の係の方が、千葉大の先生や助手の方々が家を見に来られ、七年の三月に立派な“函館市史”を御作り下さいました。私と致しましては、昭和二十年四月、三十五才で丙種の主人が招集され、一日おきに太刀洗飛行場を爆撃にくるB29の襲来にいたたまれず、幼い三人の子供を連れて、九州から北海道へと疎開してまいりました。二十一年一月男の（二男と三男）双児、二十二年十二月四男、二十五年五男と道産児が四人産れ、九州児の三人と七人の子供が昭和二十七年のクリスマスの日から、この家



受賞する竹田ノブ氏代理（写真左）

で皆無事育ってくれました。

この家は、私にとっても子供等にとっても思い出の多い家で、子供の友達も日々沢山遊びに来て下さり、患者さんの合間を見て母屋にかえってみますと、十人位の男の児がたのしそうに遊んでいて下さいました。思い出多い家ですので、私は自分の生かされている間は、そのまゝにしてねと、いつも子供等に申して今日に至って居ります。

大正二年二月十一日生の私は今日から八十六才になりました。こんなに年を取りながら私の唯一の仕事（私の父が私に基礎を定めてくれました眼科医としての仕事）を猶最後の日までつづけたく、それのみ願う毎日でございます。

「20周年記念フォーラム」

どうする？歴史・文化遺産！

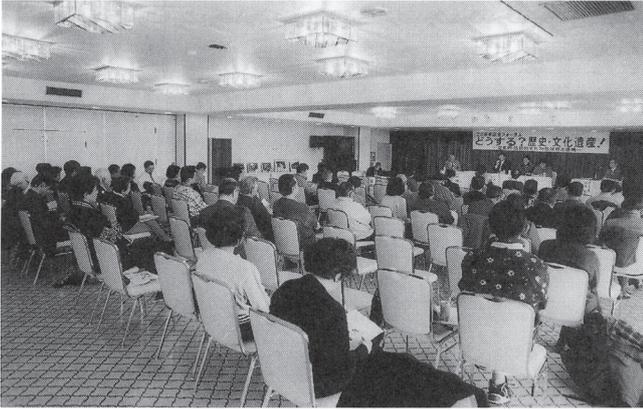
— 歴史的・伝統的文化財の保存と活用 —



フォーラム会場

表記のフォーラムが平成11年3月13日、五稜郭タワーで開催され、約100名が参加した。

荒木恵吾氏（南茅部町文化財審議会々長）の「函館圏の文化財行政の課題と提言」と題した基調講演の後に、パネリストの田原良信氏（函館市教育委員会生涯学習部文化財主査）、佐藤国男氏（版画家）、佐々木聡氏（フリーフォトライター）とコーディネーターの村井雄二郎氏（函館LLセンター・正則英語塾経営）によるパネルディスカッション＝写真＝が開催され、荒木氏も助言者として参加した。



フォーラム風景

パネラーと参加者からの提言を要約すれば、

- 『文化遺産等の何を残し、どう活用するかを広く討議する場を持つことが望ましい』と市の担当者の提言があった。
- 現在、市全体の文化財保存のビジョンが見えない。
- 最近の函館市の文化財行政及び市民運動の在り方は、『後追い施策』であった。かつて先人達が函館を基地として全国へ発信したあのエネルギーを復活して欲しい。
- 市の史蹟説明版は難しいものが多い。例えば大野

町の説明文は簡単明瞭で親しみやすい。次代を担う少年達が地域の文化財に関心を持ち、その保存活動に参加する動機付となる説明文が望まれる。

- バブル期に本州資本により買収された土地の乱開発による自然環境破壊や古民家のスペイン移送等、文化財行政の対応以前に地域住民の意識が一番重要であり、更に保全活動推進には資金が必要となるのでは？

- コーディネーターの村井氏から、『戦前期の建造物は非常に強固に作られたものが多い。旧④や旧西警察署は勿論、昭和12年建造の東川小学校々舎等を、考古資料保存館として再活用することを、フォーラムの総意として市当局へ提言したい』とアピールされると、場内参加者から大拍手が湧き起きた。

歴風会の20周年記念として、今一度原点に戻り市民と共に、足元を見つめ直そうと企画したフォーラムを終えて、これからの正念場であることを会員一同、肝に銘じた。

風景・環境と人間性

浅利 政 俊

人間の精神は対人関係に依存して形成されると同時に風景・環境との関係によっても作られる。人が歴史的風土を愛し守ろうとする根源はここに起因するものとする根拠はここに起因するものとする。

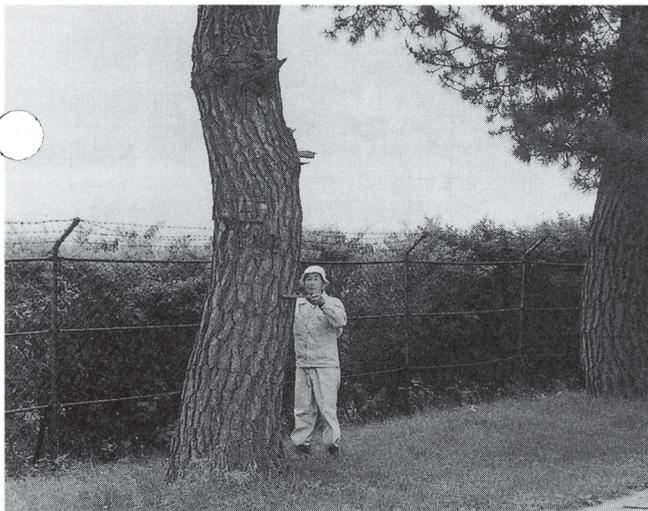
私は過去四十有余年桜の調査・研究にあたって来たが、この間、古代から現代に至るまで日本の歴史、文学、美術、工芸、民俗などを文献で調べる必要に迫られ、数多くの史実や詩歌、事物にふれることになった。

そこから学び得たものは、いつも人間がどのように感じ、考え行動しているかだけでなく、風景・環境をいかに受容し、どのように変容させているか、さらには、環境と主体、主体と環境との相互交流作用について強い関心と行動化を持続するようつとめることであった。

特に景観。私たちが他人と関係、交渉しているときも、背後に風景がある。屋外は言うまでもなく、室内

でただじっと考えている場合でも「いま私はこの地に
いるのだ」という風景の意識を持っている。勿論、室
内で何かをしていて、ふと眼を上げると窓から見える
外に自分が生きている風景がある。夜、眠っている時
も恐らく、風景を心の旅路として夢を見ることが多い。

私達の心は生まれた時から、その取りまく環境・風
景から、無意識のうちに自然的要素や社会的要素の中
から真なるもの、善なるもの、美なるものを感じとり、



赤松の診断をする浅利氏

よりよいものを選択しながら、体験した風景と共に流
れていると言えるであろう。まさに風景と共に流れて
止まらないものこそ精神と言えるであろう。

人それぞれに精神化される風景は豊富であり、それ
は自然的、社会的、人文的要素のもの等多様である
うが、それにかかわるとなると当然絞らざるを得ない。

私が実践対象に関係した景観は、昭和二十年後半
から今日まで、勤務地で生活を共に存在した生活空間
の一部のものであり、松前の桜と自然、函館山のエゾ
ヒキガエル、弁天町から谷地頭町へ向かう西部地区の
寺社・教会の構内に美しい八重桜の植栽活動、青柳町
を中心に市内花いっぱい活動、亀田川沿岸に植栽され
ている桜・松の美化保護調査活動、函館市・七飯町を
通る国道5号線の「歴史国道札幌本道赤松街道」に指
定された赤松・黒松など並木保護のための害虫（マツ
カレハ・マツノキクイムシほか）の生態調査活動等で



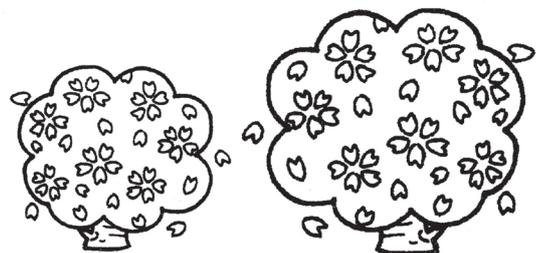
松前公園の浅利氏

ある。

私が関係して来たこれらの景観は様々な課題を抱え
ながらも素顔の表情で四季折々に美しさを増して多く
の人々にほほえみかけているようだ。一人のウォッチャー
として風景に接する時、そのほほえみは豊かで非常な
価値をもたらし、記憶には永久にとどまる。如何に財
宝や金銭があっても、ほほえみを感じる感性なしには
貧しく、如何に貧しくても、そのほほえみを全身で受
容できるなら人は豊かで居ることが出来よう。

私は身近にある道内の歴史的景観の維持保全の実践
活動を続ける積もりである。例えば国道5号線の赤松
並木や上磯町戸切地陣屋の松林等の景観の維持・保全
の調査を続けているが、これらは一層多くの人々の実
践的活動により愛護されなければならない。

歴史的風土・景観を持続的に維持するよう努めるこ
とは、人間形成に欠くことが出来ないことであり、ユ
ネスコが提唱する世代間平等の理念にも合うことにな
るであろう。



事務局日記

- ◇H10・4・11 於マラナサ
運営委員会－20周年記念事業について
- ◇H10・4・18 於タワー
「第6回文化発見企画」へ多数参加。
- ◇H10・4・23 於マラナサ
第11回運営委員会－20周年記念事業
記念フォーラム。「れきふう」特集号、縮刷版発行。
- ◇H10・4・27
全国町並み連盟だより－受信。
- ◇H10・5・18 於マラナサ
実行委員会－総会について
- ◇H10・5・31 於五島軒本店
PM5:00 平成10年度 総会（35人出席）
PM6:00 20周年記念式典開催。
- ◇H10・6・6
第1回運営委員会－於マラナサ
新役員指名。れきふう復刻版配布。
- ◇H10・6・7
姫路市大手前通り街づくり協議会へ資料を送付
- ◇H10・6・30
第21回全国町並みゼミ東京大会の案内届く。
- ◇H10・7・7 於マラナサ 第1回月例会開催。
- ◇H10・7・23 第2回運営委員会 於マラナサ
今後の会運営について
- ◇H10・8・13
花井家住宅について須藤先生より連絡あり。
- ◇H10・7・24
箱館奉行所復元促進期成会総会
- ◇H10・7・28 「れきふう特別号」発送。
- ◇H10・8・18
箱館奉行所中庭跡発掘調査現場説明会案内状。
- ◇H10・8・20 第2回月例会 於マラナサ
・20周年フォーラムについて
- ◇H10・8・22
花井家予備調査（浜島・吉村・宇野・小熊）
- ◇H10・9・3 第3回運営委員会 於マラナサ
記念フォーラムについて
- ◇H10・9・10
地域づくり東日本交流会議斜里大会案内
- ◇H10・9・17 於マラナサ 出席者 7人
- ◇H10・9・19
元町地区見学会（旧金森洋物店・書籍庫外）約20名参加。
- ◇H10・10・2 函館市都市景観賞を受ける。
- ◇H10・10・5～6
開港五都市景観会議－代表者会議－浜島出席。
- ◇H10・10・8 第4回運営委員会（11人出席） 於タワー
チャリティーパーティーについて
- ◇H10・10・22 第5回運営委員会（14人出席） 於タワー
- ◇H10・11・6 「れきふう60号」完成・発送。
- ◇H10・11・12 第6回運営委員会 於タワー
・フォーラムについて
・チャリティーパーティーについて
実行委員長辞任 ー若山・吉村担当ー
原風景「オツケの濱」 ー千葉担当ー
- ◇H10・11・19 第7回運営委員会 於タワー
・実行委員長 鈴木恵子氏
（湯の川グランドホテル社長） } 決定
副実行委員長 中林利教氏
（NHK函館放送局長）
- ◇H10・12・17 第8回運営委員会 於タワー
・チャリティーパーティーについて
・フォーラムについて
- ◇H11・1・15 第1回実行委員会 於五島軒
- ◇H11・2・5
・「農村景観を考えるシンポ・Ⅲ－農村に住う」

- 福島県下郷所大田宿 3/6～3/7案内状。
- ◇H11・2・11 於五島軒
・第2回実行委員会（19人出席）
P券状況。当日分担保確認。
・全国町並み連盟、平成11年度幹事会案内。
- ◇H11・2・19 於五島軒
『第21回新春チャリティー・パーティー』
約400人の出席者で大盛況に終る。
- ◇H11・3・12 運営委員会・実行委員会 於タワー
- ◇H11・3・13 20周年記念フォーラム 於タワー
「どうする？ 歴史・文化遺産！
－歴史的・伝統的文化財の保存と活用－」

グループだより

- 1998. 春号 Ponte No.10
「勝鬨橋をあげる会」（東京）
- 1998. 3. 31 有松 No.38
有松まちづくりの会（名古屋）
- 1998. 4. 28 チンチン電車 No.18
チンチン電車を走らせよう会（五稜郭）
- 1998. 5. 20 大手前通 No.2
大手前街づくり協議会（姫路市）
- 1998. 6. 15 町並み No.26
町並み通信社（京都市）
- 1998. 6. 15 岡田氏を偲ぶ
- 1998. 9/18～9/20 第21回全国町並みゼミ東京大会
- 1998. 10. 30 有松 No.39
- 1998. 秋号 Ponte No.11
- 1999. 1. 22 大手前通 No.3
- 1999. 3. 19 温故知新 第102号
七飯町郷土史研究会
- 1999. 2. 5 ぶんぼけん第77号
大野町文化財保護研究会

お知らせ

- ◇会費納入のお願い！
未納者へ納付書を同封して居りますので、よろしくお願ひ
します。尚不明な点がありましたら、会計の佐々木（41）
1425までご連絡下さい。
- ◇4月14日（水）午後6:30 於五稜郭タワー
第1回運営委員会。20周年記念フォーラムのまとめと新年
度総会についての話し合い。

編集後記

- ◇第21回チャリティー・パーティが2月19日、多数の皆様の
御参会のもと、盛大裡のうち、無事終了出来ましたこと厚く
御礼申し上げます。
- ◇鈴木実行委員長・中林副実行委員長、大役ご苦労様でした。
会員一同心よりの謝意を表します。
- ◇3月13日開催された20周年記念フォーラムも終了しました。
基調講演の荒木先生、コーディネーターの村井先生、田原・
佐藤・佐々木各パネリストの皆様、ほんとうに御苦労様でし
た。
- ◇会場で提案されたご意見の数々、今後の会運営の指針とす
べく重く受けとめました。
- ◇今号の事務局日記は浜島会長のメモより作成し、写真は吉
村・飯田・宇野会員と浅利寄稿者の協力に寄りました。
- ◇彼岸、今年は大雪に見舞われましたが、65年前の函館大火
の時はもっと烈しかったと聞かされ、改めて自然の猛威を実
感しました。
- ◇しかし、時は春！ 何となく温もりすら感じられます。
「れきふう」にも春の萌しを感じつつ……。 （落合記）